

共同運営部門：心臓・血管センター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
センター長 兼副病院長兼臨床研修副センター長 兼患者サポートセンター長 兼臨床工学・技術センター長	船津 俊宏
副センター長 兼循環器内科主任部長 兼リハビリ副センター長兼医療安全管理副室長	習田 龍

＜関連部署＞

部署名	部署名
循環器内科	心臓血管外科
7階山側病棟,ICU/CCU病棟	臨床工学・技術部門 臨床工学
地域医療連携室	薬剤部門
リハビリテーションセンター	

＜特色と概要＞

2002年に開設となった心臓センターは、20年目を迎えた2022年、名称を心臓・血管センターとした。開設当初より循環器内科、心臓血管外科の両診療科によってこれを構成し、当院における循環器系疾患の診療にあたってきた。特に併設の泉州救命救急センターに搬送される急性冠症候群（不安定狭心症、急性心筋梗塞）や急性大動脈症候群（大動脈解離、大動脈瘤破裂）、重症心不全や重症不整脈などに対しては、当直医を常駐し24時間体制で対応している。昨今ではそれら両診療科に加え、看護師（病棟・ICU看護師、慢性心不全看護認定看護師）、臨床工学技士、検査技師、リハビリテーション技師、薬剤師、MSWなどの多職種が参加、連携して、初診から退院、あるいは退院後の外来フォローに至るまで、包括的かつ合理的にケアに当たっている。また、高齢心不全患者に繰り返しACPを行い、循環器疾患の複雑かつ多様な治療選択ができるよう医療チームで介入している。

今年度は、手術センターに6月に増設したハイブリッド手術室を使用し、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）を開始した。年度内に3例の症例を実施した。

＜実績＞

両診療科の臨床実績（2024/1/1～12/31）は、循環器内科では心臓カテーテル検査862件、冠動脈カテーテル治療308件、ペースメーカー植え込52件、カテーテルアブレーション215件、下肢動脈カテーテル治療69件などであり、カテーテルアブレーションと下肢動脈治療は増加したが、その他はやや減少傾向であった。心臓血管外科は手術室手術173件と、大きく伸ばした昨年よりは減少した。うち開心術は101例で、これも昨年を下回った。内訳は冠動脈疾患20例、

弁膜症56例、胸部大動脈瘤21例、腹部大動脈瘤24例、末梢血管19例などであった。TAVIの非実施が弁膜症手術数に影響していたと思われ、来年以降はTAVIの開始も相まって弁膜症手術の増加を見込んでいる。今年度も循環器内科、心臓血管外科とも泉州地域の救急患者を積極的に受け入れた。

院内多職種が会しての、心臓・血管センター合同カンファレンスを毎週水曜日朝に開催し、問題症例や多職種連携を中心に話し合いを積極的に行っており、今年度も継続した。また心不全地域連携プロジェクトは、今年度も集会をWeb・現地ハイブリッドで実施した。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

循環器内科はカテーテルアブレーション件数がさらに増加し達成したが、デバイスの進歩による再狭窄の減少が関与していると思われる冠動脈カテーテル治療件数の減少傾向は継続した。心臓血管外科とともに、近隣の医療施設を積極的に訪問するなどの集患に努めていきたい。

一方、TAVIの開始は当院の弁膜症治療における大きな進展であり、今後さらに発展させ治療実績を伸ばしていきたい。

反省点としては、依然として循環器救急の停止時間が縮減できておらず、応需できない地域の循環器救急症例が存在したことである。今年度は特に近隣の支援病院と連携し、急性期治療を終えた、あるいは希望されない心不全患者の早期転院を実践して効率的なベッド運用を行なった。循環器病棟やICUの満床は、循環器救急受け入れを制限するため、空床の確保は極めて重要課題である。来年度以降も、満床による循環器救急停止を最小限に抑えるべく、多方面から取り組んでいきたい。